

パシフィックシステム株式会社
平成19年9月中間期
決算説明会

平成19年12月6日

代表取締役社長 末武 信一

- 中間期決算概況
- 通期業績見通し
- 今後の経営方針

中間期決算概況

➤ 増収・減益となりました

平成19年9月中間期 トピックス

主なIR情報

- ◆ 4月19日 JASDAQ証券取引所に株式上場
- ◆ 9月20日 (株)システムベースの株式取得を決議
⇒平成19年10月31日に連結子会社化し、グループ社員150名増員となりました
- ◆ 9月27日 (株)マキ製作所が民事再生法申請
⇒特別損失(約32百万円)を計上しました

施策上のトピックス

- ◆ 新規ビジネス研究開発
 - ・中堅企業向けERPパッケージビジネスへの取組みを開始しました
 - ・鉄鋼流通加工業向け販売加工管理システム(Perfect STEEL)
⇒8月に紙上発表しました
- ◆ 当社として新規分野の携帯電話向けアプリケーション開発
⇒先行投資として携帯電話向けアプリケーション開発に取組みました

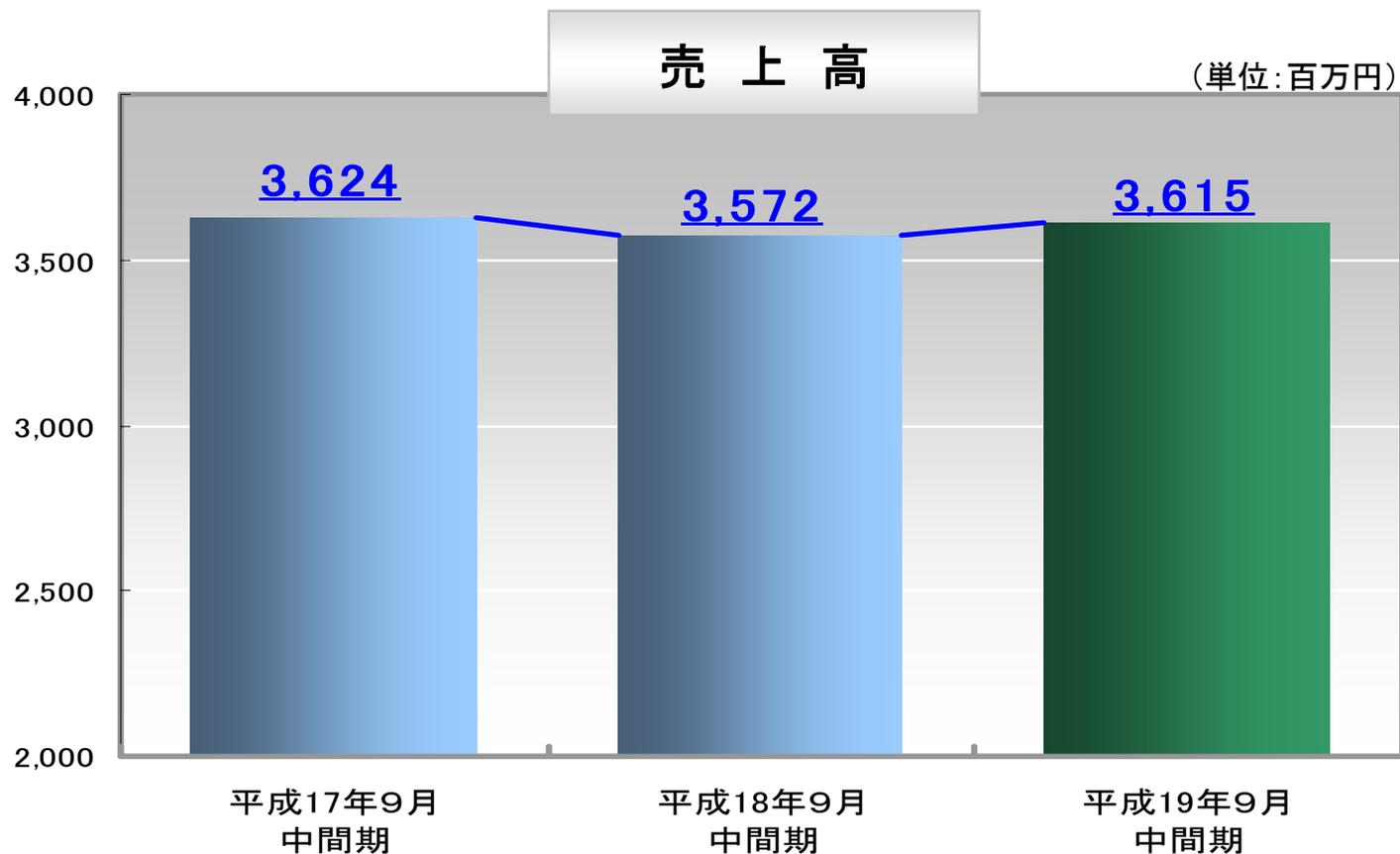
平成19年9月中間期 連結決算ハイライト

(単位:百万円)

決算年月次	平成18年9月 中間期(A)	平成19年9月 中間期(B)	前年同期比 (B-A)	伸び率	平成19年9月 (前回公表値:C)	B-C	伸び率
売上高	3,571	3,614	43	1.2%	3,578	36	1.0%
売上総利益 <利益率>	662 <18.5%>	689 <19.0%>	27 <0.5%>	4.0%	—	—	—
販売管理費	527	574	47	9.0%	—	—	—
営業利益	134	114	△20	△15.0%	82	32	39.6%
営業外費用	3	25	—	—	—	—	—
経常利益	132	92	△40	△30.6%	53	38	71.7%
特別損失	0	32	—	—	—	—	—
中間純利益	75	22	△52	△69.6%	31	△8	△26.6%

- 売上高は、「システム販売」の伸びにより、増加しました。
- 経常利益は、新規研究開発投資の追加や上場関連費用計上等により、減少しました。
- 純利益は、マキ製作所の売掛債権等による特別損失により、減少しました。

平成19年9月中間期 売上高の推移



●平成18年9月中間期は、大型システム投資がなかったことによる落込みがありましたが、平成19年9月中間期は、画像処理システムや、生コンクリート関連システム等の「システム販売」が伸びたことにより、増加に転じました。

平成19年9月中間期 事業区分別の概況

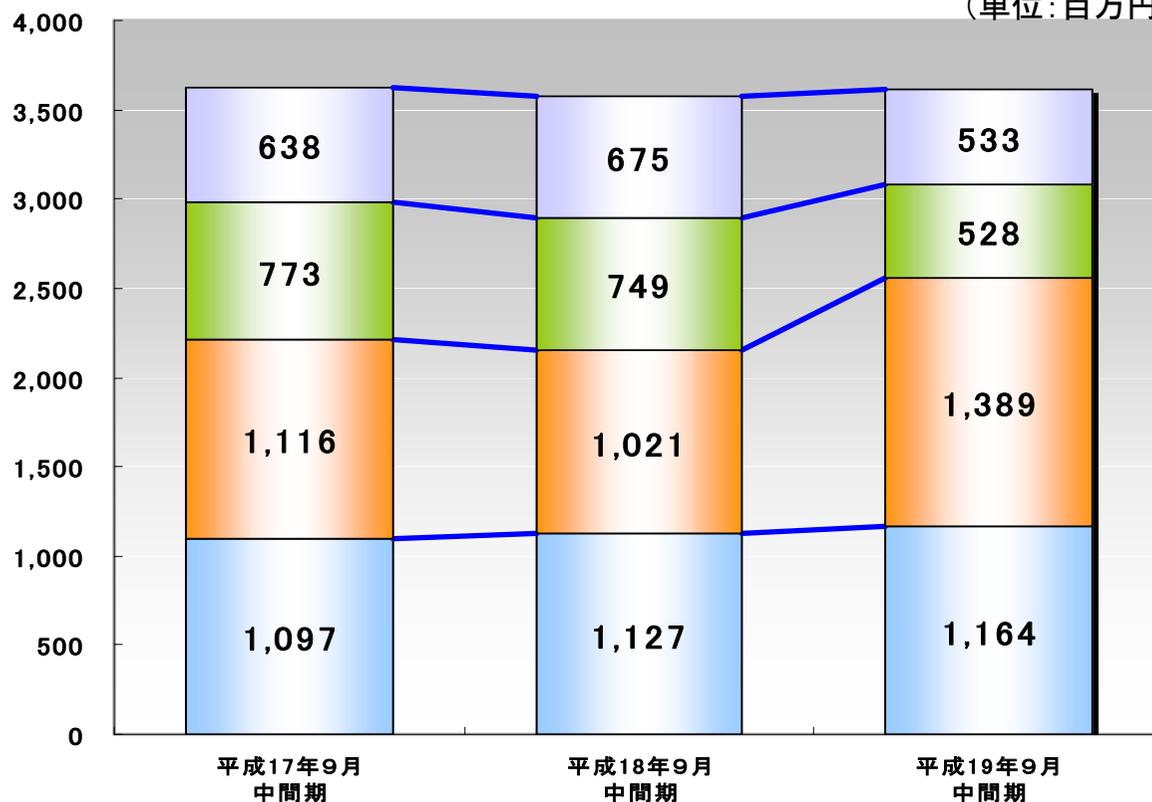
区 分	内 容	売上高 (百万円)	構成比 (%)	前年同期比
システム販売	<ul style="list-style-type: none"> ・画像処理システム ・農業生産管理システム ・生コン業界向けシステム等の販売 ・ネットワーク構築等のインフラサービス 	1,389	38.4	36.1%増
システム運用・ 管理等	<ul style="list-style-type: none"> ・ユーザシステムの運用・管理サービス ・アウトソーシング・データセンタ ・パソコン教育等 	1,164	32.2	3.3%増
ソフトウェア開発	<ul style="list-style-type: none"> ・製造・流通・金融業等の アプリケーションの受託開発業務 	528	14.6	29.5%減
機器等販売	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコン・サーバー及び周辺機器 ・パッケージソフト等の販売 	533	14.8	20.9%減
合 計		3,614	100.0	1.2%増

- 「システム販売」は、画像処理システム、インフラサービス、生コンクリート関連システムが伸びました。
- 「ソフトウェア開発」は、上期予算も減少を見込んでいたことに加え、受注の遅れや作業の下期ズレによる影響が主な理由で、若干見込みより下回りました。

平成19年9月中間期 事業区分別業績推移

売上高

(単位:百万円)



機器等販売

- 大口案件が減少

ソフトウェア開発

- 上期予算が薄く、また、上期受注の遅れや作業の下期ズレが主な要因で減少

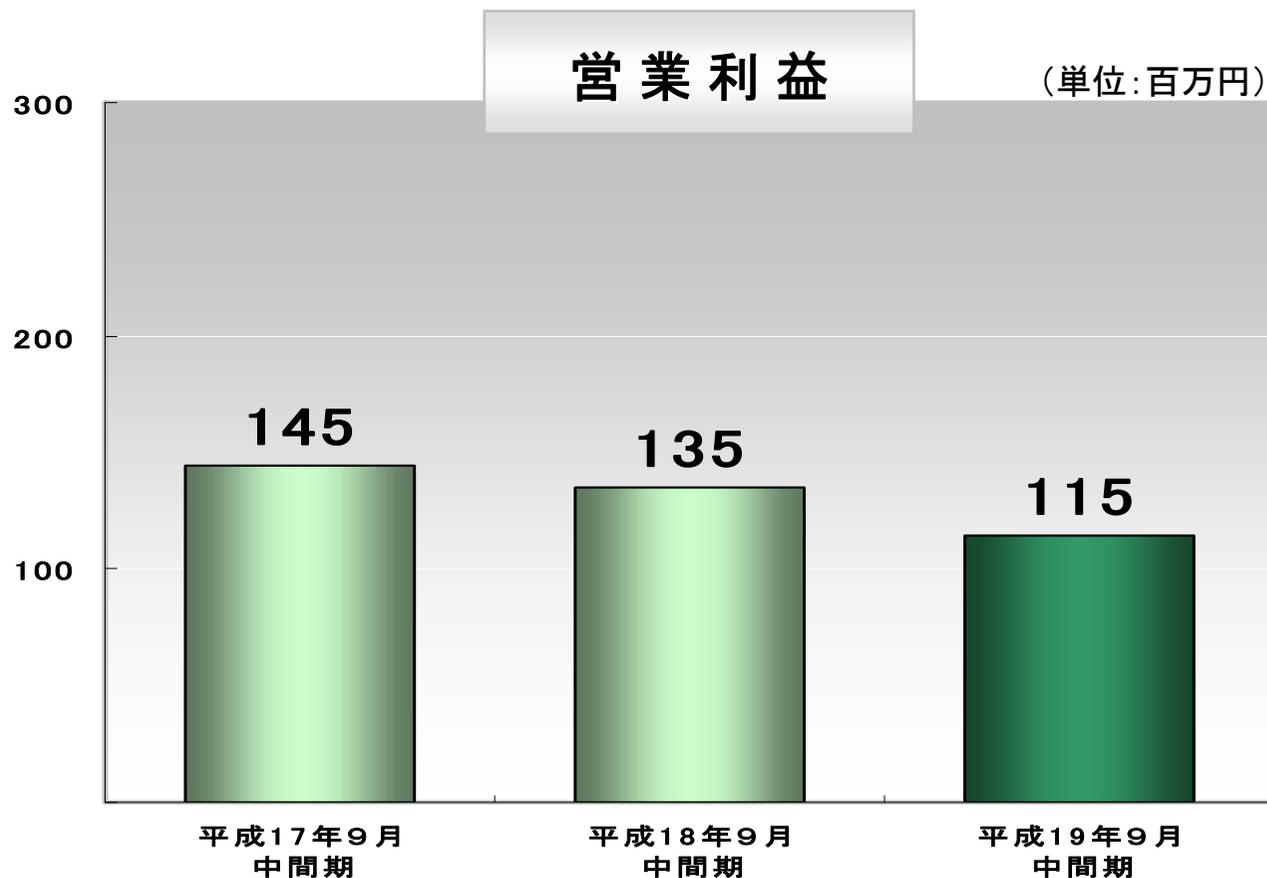
システム販売

- 画像処理システム、インフラサービス、生コンクリート関連システムが伸びたことにより好調に推移

システム運用・管理等

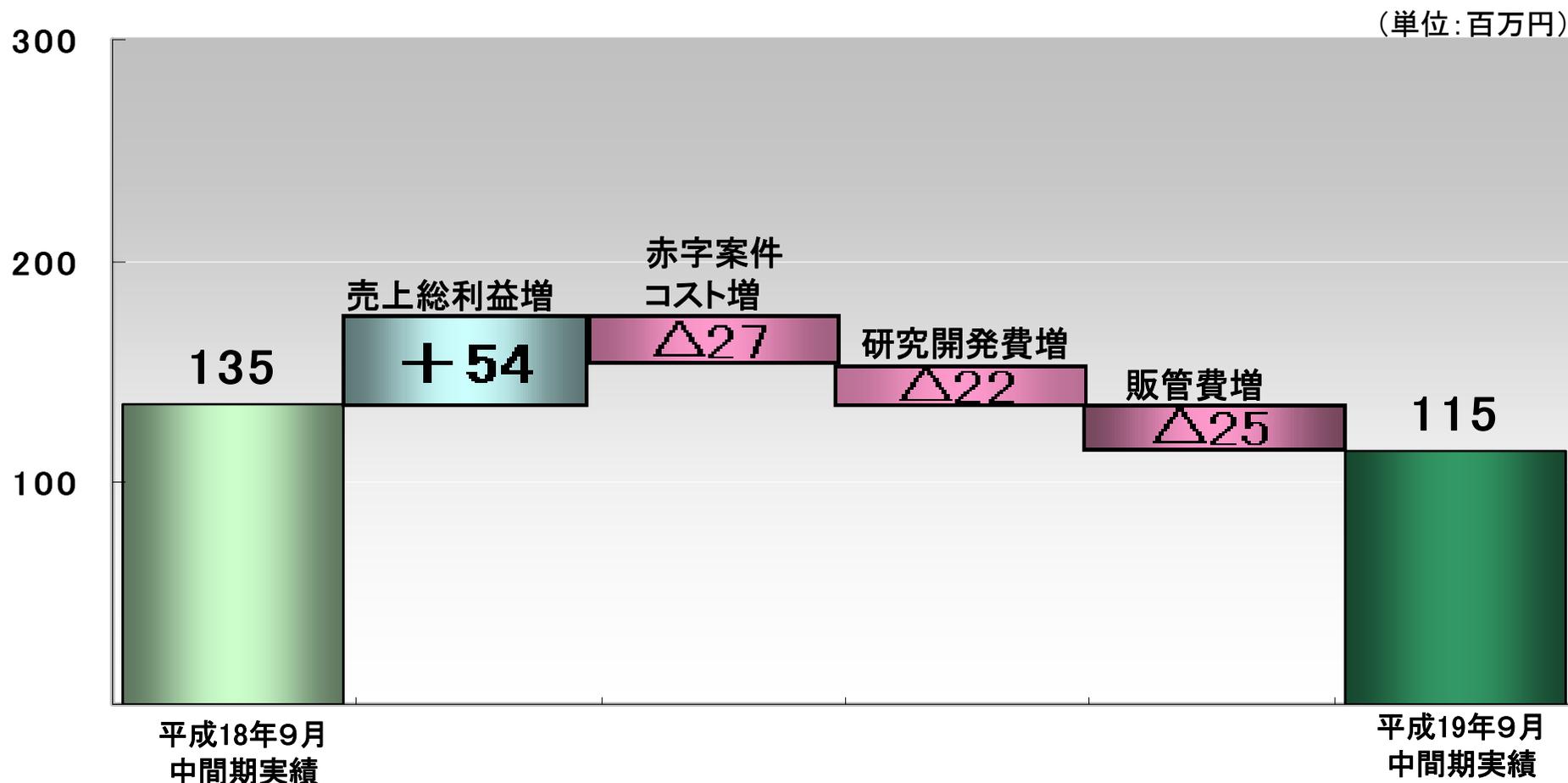
- システム運用支援関連が増加したことにより増加

平成19年9月中間期 営業利益の推移



●売上高及び売上総利益は増加しましたが、先行投資としての教育投資、研究開発や、赤字案件(こちらも将来投資と判断しております)等のため、前年同期を下回りました。

平成19年9月中間期 営業利益差異分析



- 増加要因:「システム販売」の売上増加
- 減少要因:先行投資費用、販売費及び一般管理費(会計士費用等)の増加

平成19年9月中間期 財務諸表

(単位:百万円)

資産の部		負債の部	
流動資産	2,44		
固定資産	1,519		
資産合計	3,962		
		純資産の部	
		純資産合計	2,437
		負債純資産合計	3,962

(株)システムベースが持分法適用
関連会社となったことにより、
資産及び純資産が

+218百万円増

一株当り純資産 1,649円 35銭

通期業績見通し

▶ 増収・増益の見通しです

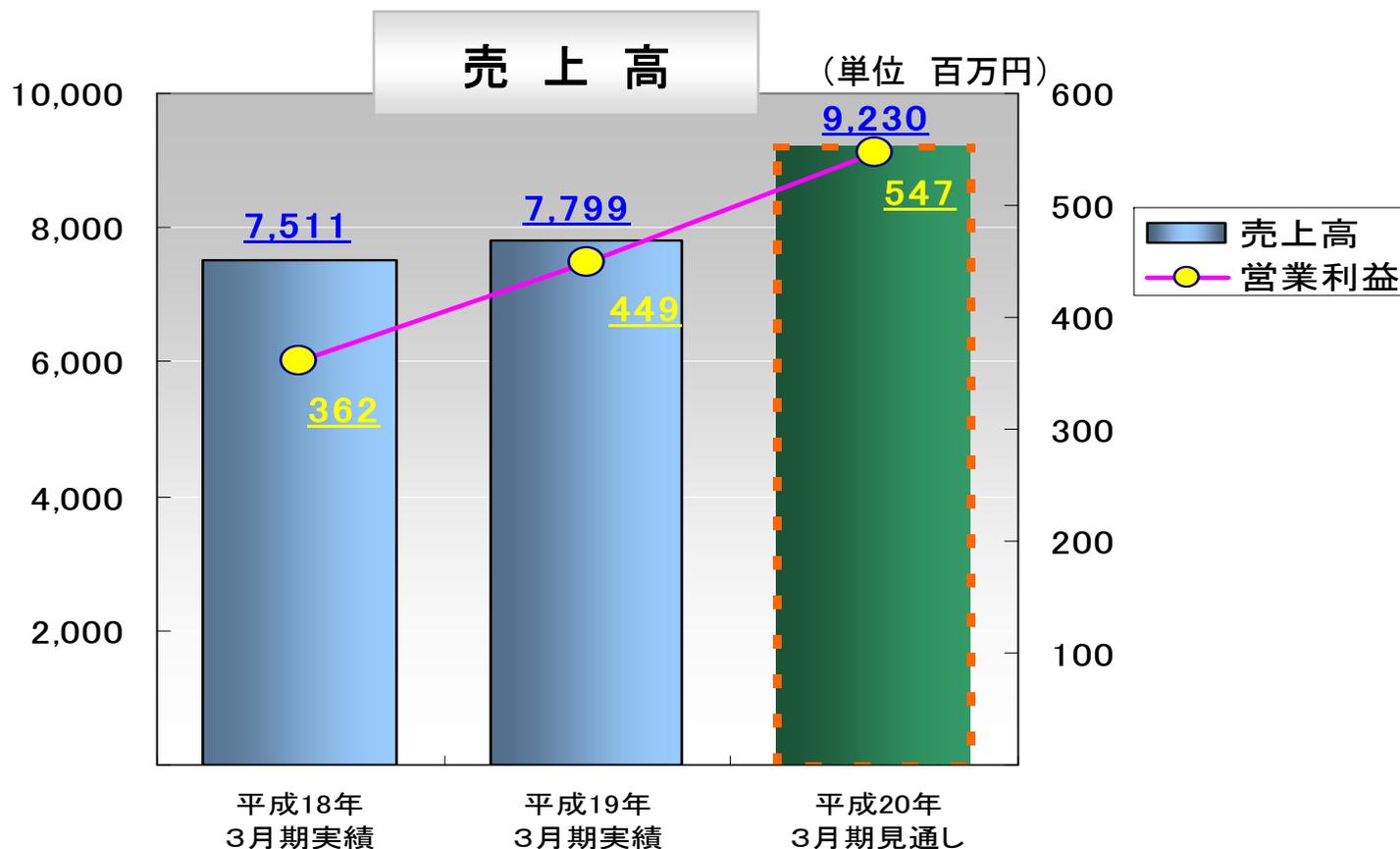
平成20年3月期 通期業績見通し

(単位:百万円)

決算年月次	平成19年 3月期	平成20年 3月期見通し	前年同期比		平成20年3月 (前回公表値)	差異	
	A	B	B-A	伸び率		C	B-C
売上高	7,799	9,230	1,431	18.3%	8,384	845	10.0%
売上総利益 <利益率>	1,479 <18.9%>	2,143 <23.2%>	664 <4.3%>	44.8%	—	—	—
販売管理費	1,030	1,596	566	54.9%	—	—	—
営業利益	449	547	97	21.8%	526	20	3.9%
経常利益	442	521	79	17.8%	493	28	5.7%
純利益	258	273	14	5.7%	275	△1	△0.5%

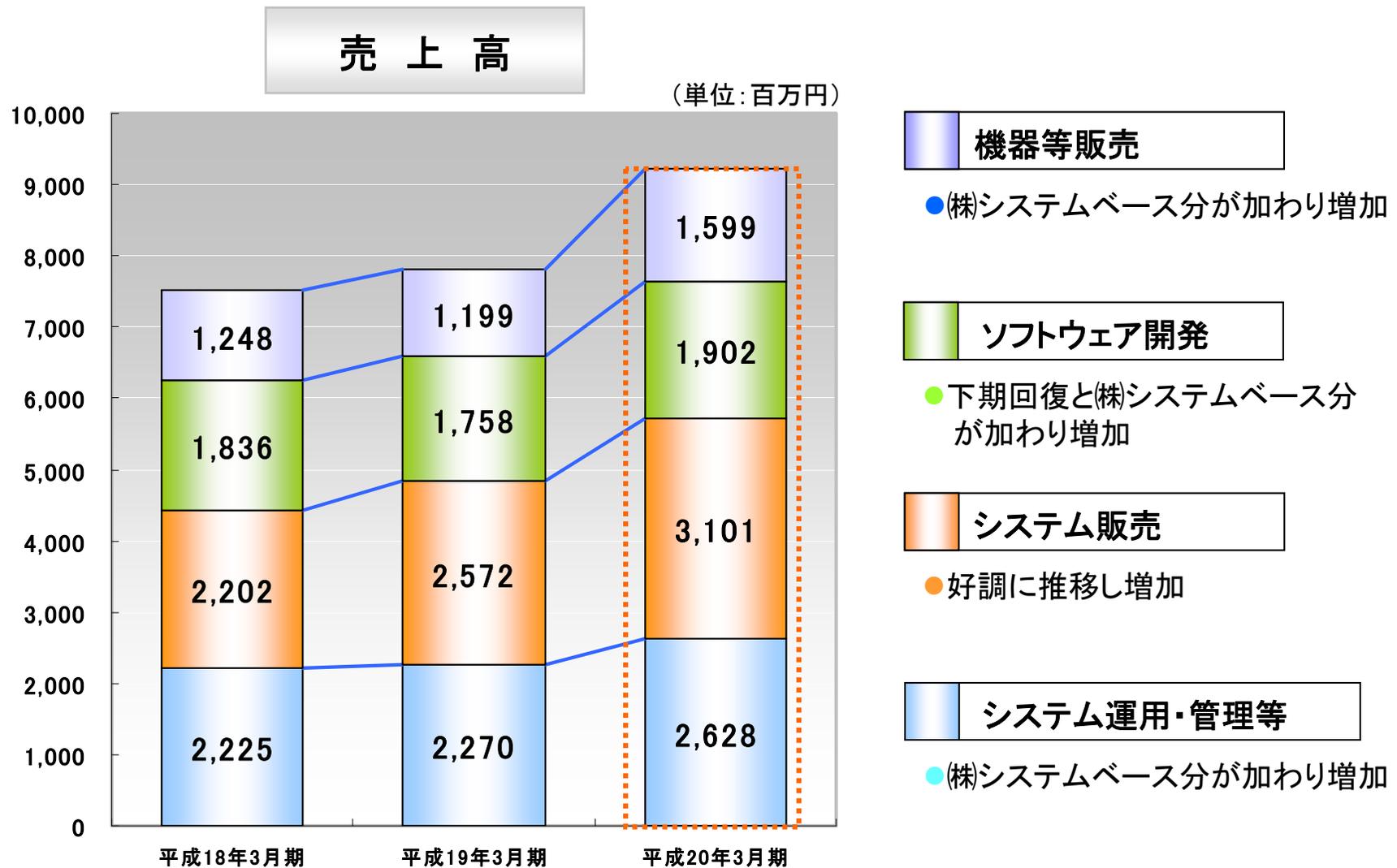
- 農業生産管理システムの売上減少が見込まれるものの、画像処理システム、インフラサービスと新規ソフトウェアパッケージ等の売上増加を見込みます。
- (株)システムベース(SB)の半期分の連結により、事業全般への寄与があり、売上高及び利益の増加を見込んでいます。
- 純利益は、上期特別損失の影響で小幅な増加になります。

平成20年3月期 通期業績見通し

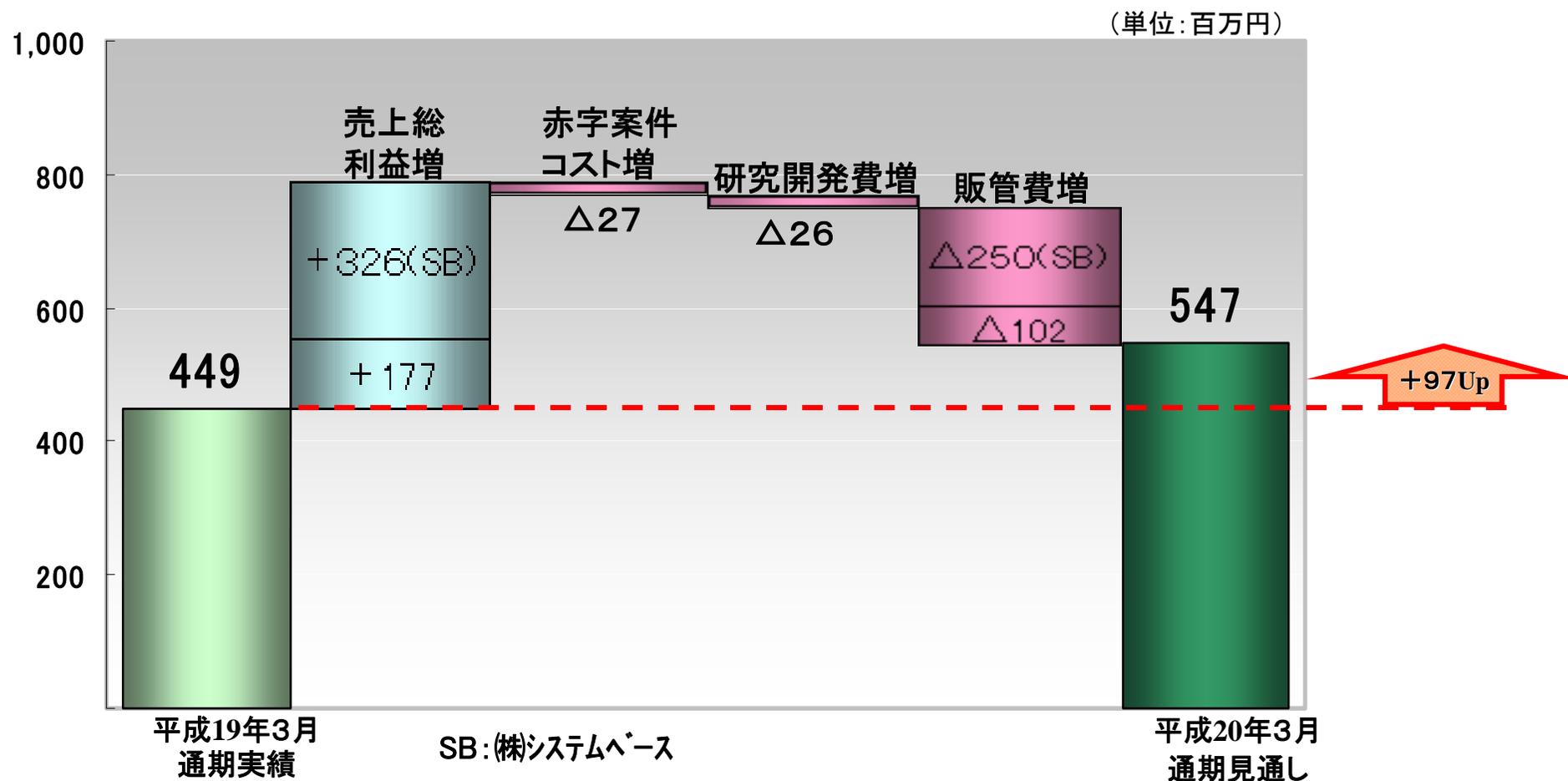


●従来商品ラインアップに新規ソフトウェアパッケージ等を加えた「システム販売」の伸長や、「ソフトウェア開発」の業績回復、そして、(株)システムベース(SB)の連結により、前期比増収、増益を見込んでおります。

平成20年3月期 事業区分別業績見通し



平成20年3月期 通期営業利益分析



- 増加要因: 売上増と利益率改善及び、(株)システムベース半期利益の加算
- 減少要因: 赤字案件コスト、研究開発費と販管費の増加

今後の経営方針

- ▶ 09中期経営計画で策定した事業戦略のスピードアップ
- ▶ 拡大事業分野への経営資源の「選択と集中」を積極推進
- ▶ 株式会社システムベースとのシナジー効果を高める諸施策の実施
- ▶ 人材の育成強化

基本方針

特化した技術・事業に『選択と集中』を更に進め、より将来性のある分野に資源(人・資金)を投入します

⇒09中期経営計画を基本に10中期経営計画の策定を進めています。

■ **機器等販売**

あまり高い伸びは想定しておりません。

■ **ソフトウェア開発**

ERPパッケージビジネスやPSCビルド(開発ツール)等生産性向上の施策による売上増、競争力向上を計画しています。

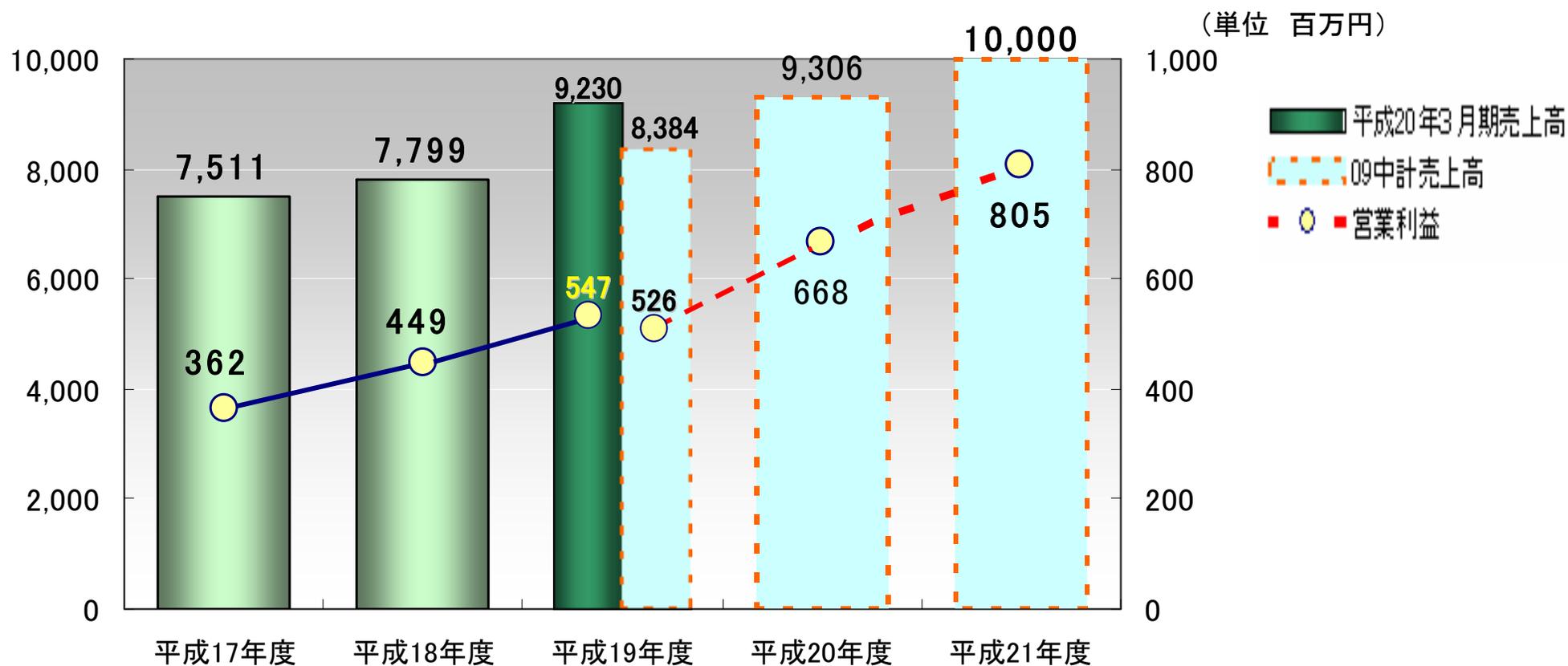
■ **システム販売**

画像処理技術の新規開発、コールセンター体型戦略営業システムの顧客拡大、GPS活用配車管理システム(スカイワンⅡ)の拡販、鉄鋼流通加工業向け販売加工システムの営業拡大を計画しています。

■ **システム運用・管理等**

安定した収益確保のための生産性向上を追求します。

09中期経営計画で見る見通し



●ビジネススピードを上げ、09中期経営計画を1年前倒して、計画達成を目指しています。

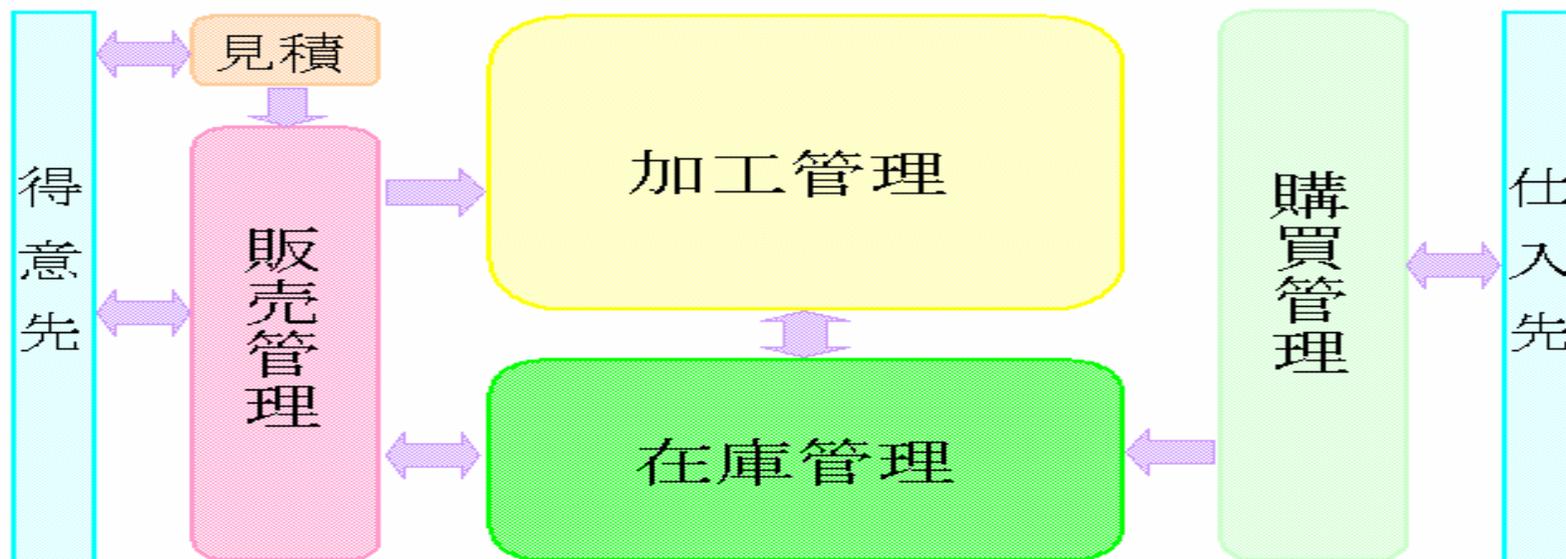
鉄鋼流通加工業向け販売加工管理システム

Perfect STEEL

— 業界特有の商慣習に対応し、加工管理の効率化を実現 —

- 中小企業規模の鉄・非鉄を取扱いのお客様にご導入いただけるシステムです。
- 内部統制で必要とされる適正な業務の遂行が可能です。

※詳細内容は、カタログをご覧ください。



株式会社システムベース

技術力を有した人材及び商圏の獲得
のために連結子会社といたしました

企業概要

社名	: 株式会社システムベース
本社	: 岩手県北上市村崎野19地割116番地4
代表者	: 代表取締役会長 高木 晃三
設立	: 昭和50年9月
資本金	: 3,000万円
売上高	: 2,109百万円(平成19年9月期)
営業利益	: 165百万円(平成19年9月期)
従業員	: 128名(平成19年9月現在)(連結子会社(株)リンクを含めて150名)
事業内容	: ①データ処理サービス ②コンピュータ機器等の販売 ③ソフトウェア及びパッケージソフトウェアの設計・開発等
拠点	: 岩手県北上市、岩手県盛岡市
連結子会社	: 株式会社リンク 岩手県北上市

パシフィックシステムグループの事業所展開

- : パシフィックシステム株式会社
- : パシフィックテクノス株式会社(連結子会社)
- : 株式会社システムベース(※)

※平成19年10月31日より連結子会社となりました



見通しに関する注記事項

本資料中の予想は、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成されており、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合がありますので、その点ご承知おき頂きますようお願い致します。

- お問い合わせ先は、下記にお願いします。
 - パシフィックシステム株式会社 経営企画室
 - 取締役経営企画室長 小澤 文男
 - 電話 : 03-5847-4700
 - FAX : 03-5747-4710
 - URL : <http://www.pacific-systems.co.jp/>

